

症例 9 肝内胆管癌合併肝内結石症の1例

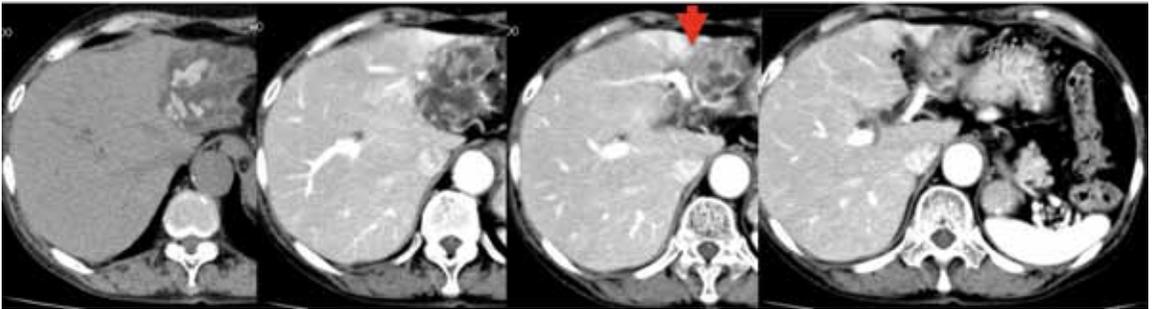
A. プロファイル

症 例	74 歳, 女性
既 往 歴	高血圧, 脳梗塞
家 族 歴	特記事項なし
生 活 歴	喫煙: なし 飲酒: なし
活 動 度	7METs 以上
現 病 歴	スクリーニングで, 腹部超音波検査を施行したところ, 肝左葉外側区域に肝内結石を認めた. 腫瘍マーカーの上昇を認め, 肝内胆管癌の存在も疑われ, 手術の方針となった.
身 体 所 見	特記事項なし
血液検査所見	WBC, CRP: 正常, BUN/Cr: 18/0.83 mg/dl, CEA: 1.8 ng/ml, CA19-9: 207 U/ml

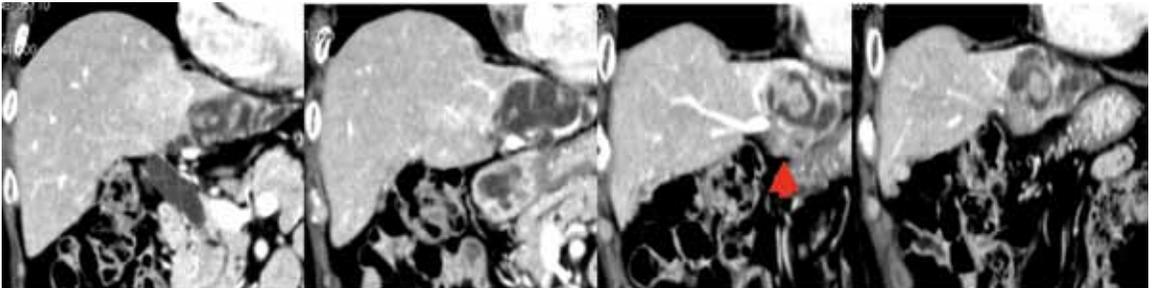
B. 画像検査

1. 造影CT検査

axial



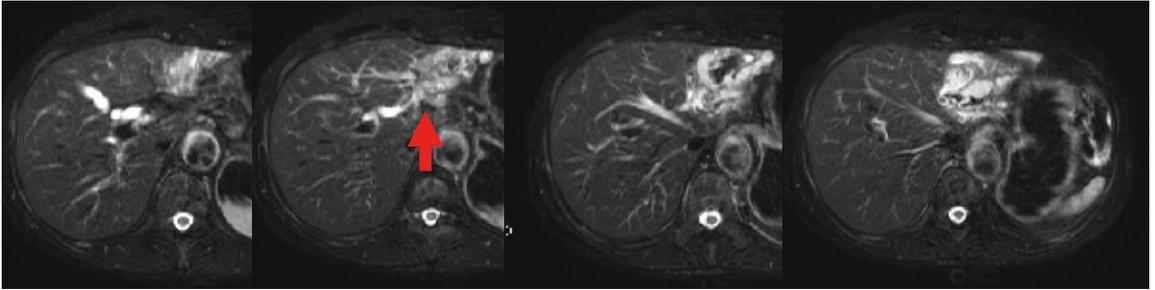
coronal



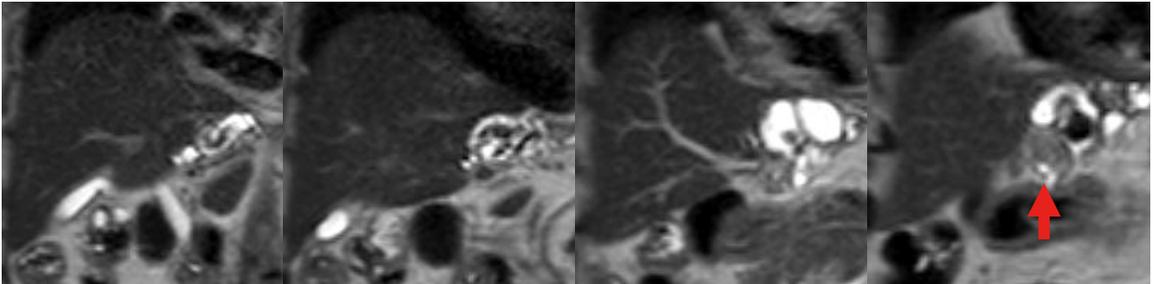
肝外側区に管状構造様の嚢胞性病変と内部に粗大な石灰化を複数認める。また、石灰化とは区別される充実成分も混在している。肝左葉は萎縮している。

2. MRI-T2

axial



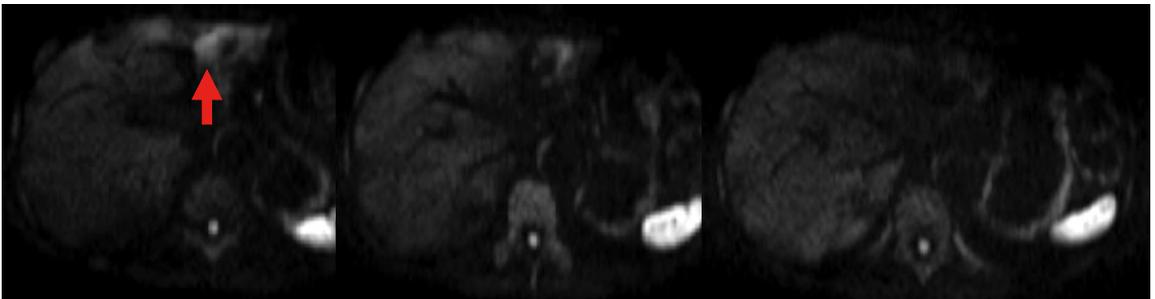
coronal



左葉外側区に、嚢胞成分以外の充実成分を示す部分を認める。

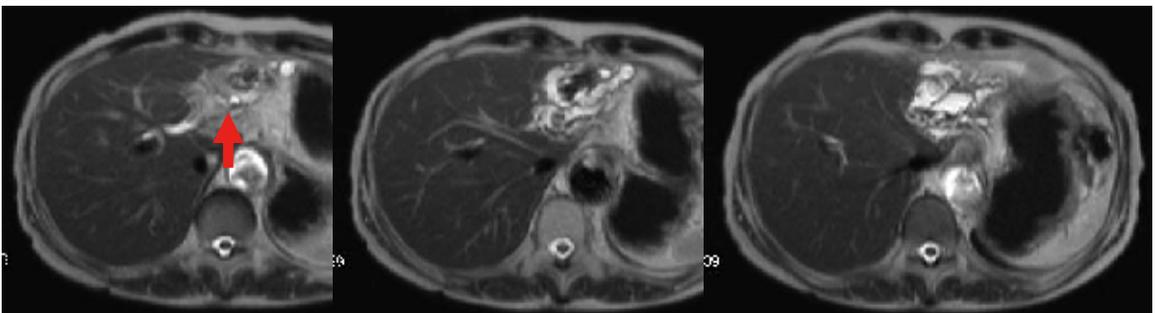
3. MRI-DWI

axial



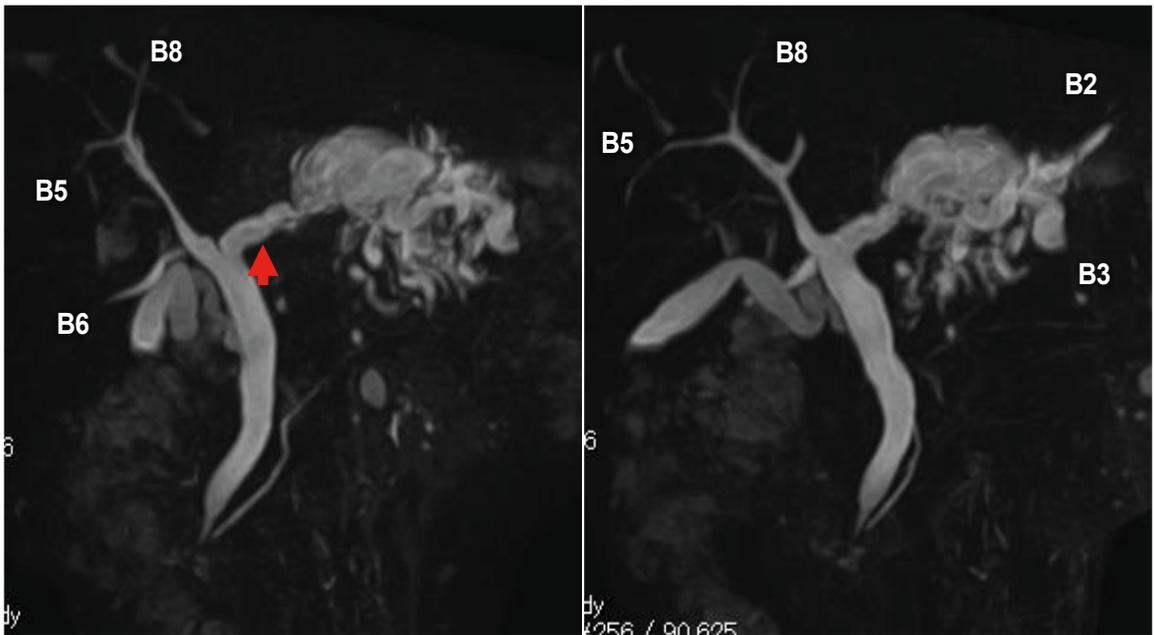
MRI(T2)との対比

axial



T2画像の灰色信号部に一致して、Diffusionで高信号を呈している部分に充実性腫瘍の存在を疑う。

4. MRCP

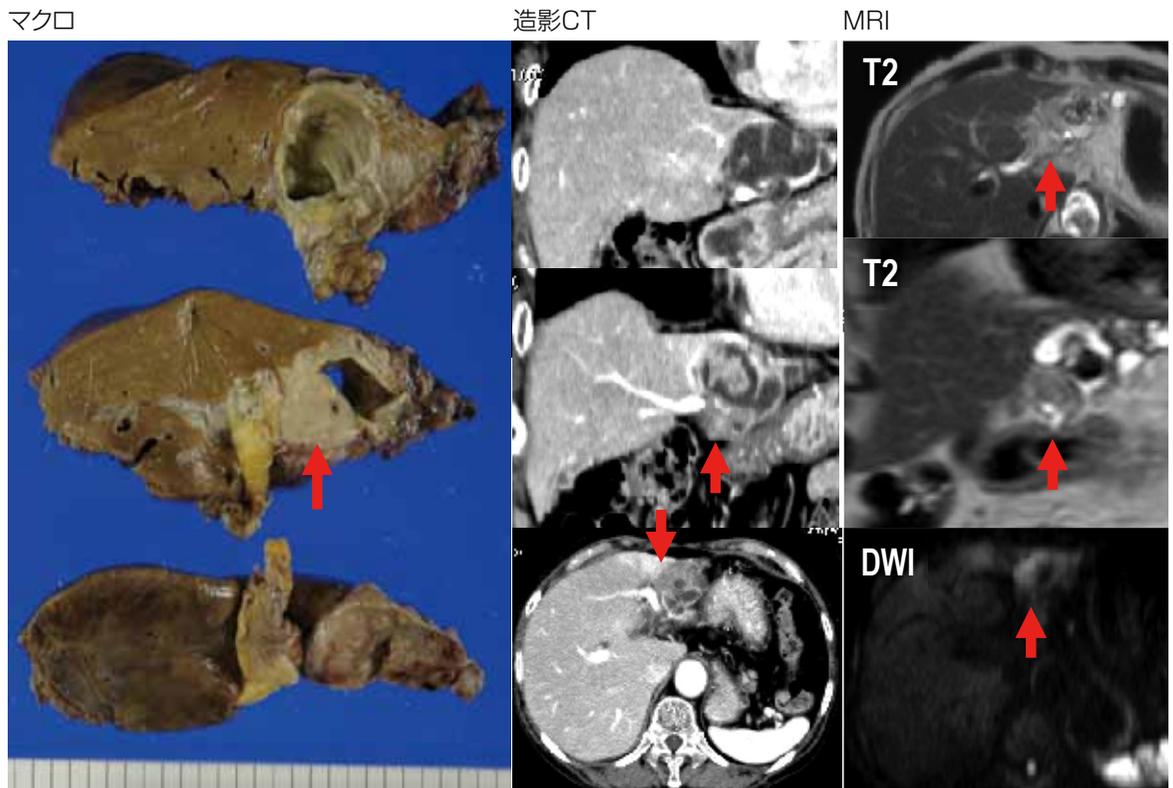


左肝管に嚢胞状の胆管拡張を認め、内部に結石を示す陰影欠損を認め、左枝本幹にまで及ぶ。

C. 診断・治療経過

術前診断	肝内胆管癌合併肝内結石症
治療方針	肝左葉切除術 (→左肝管で術中迅速を行い癌の浸潤あれば胆管切除を追加予定)
手術所見	肝左葉切除術施行
術中迅速病理	左肝管断端陰性
最終病理	左肝門部の線維性結合織内に、高分化型から低分化型腺癌が散在性に認められ、腫瘍は左肝管から左葉末梢側に向かい進展している。神経線維への浸潤がみられる。腫瘍近傍には上皮が内腔に向かい乳頭状に増殖する胆管が散見される。

D. 病理と画像の対比



病理マクロ像と比較すると造影CTで低吸収, MRI-T2で高信号, DWIで低信号に見えている部位は拡張した胆管, 充実成分はCTで造影効果を示し, MRI-T2強調画像で灰色信号, DWIで高信号を示した。

E. まとめ

腫瘍マーカー上昇を伴った肝内胆管癌合併肝内結石症症例. 萎縮した肝左葉内の拡張胆管内に充実性腫瘍を認め, 病理学的に肝内胆管癌が証明された. この充実成分は, 造影CTで造影効果を示し, MRI-T2強調画像で灰色信号, DWIで高信号を示した.

(大阪医科大学症例)